

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 11月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201107		
法人名	有限会社 篠路愛護苑		
事業所名	グループホーム 第2からまつ		
所在地	札幌市北区拓北4条3丁目10番17号 (電話)011-775-4731		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年11月19日	評価確定日	平成21年12月7日

【情報提供票より】(平成 21年 11月 2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 11月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	16人、非常勤 3人、常勤換算 15.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	3 階建ての	2~3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費20,000円 暖房費(11~3月)10,000円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
月額40,000 円			

(4) 利用者の概要(11月 2日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	70 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌優翔館病院	ドゥ・ケア歯科	川嶋泌尿器科	本間皮膚科
---------	---------	---------	--------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームは札幌市郊外、JR駅近くの閑静な住宅地にあり、3階建ての2、3階がグループホームになっている。管理者を中心にケアサービスの向上に積極的に取り組んでおり、アセスメントに基づくきめ細かな介護計画の作成や見直し、自己評価への取り組みと各職員の内容理解、職員を育てる取り組みなどに力を入れており、着実にサービス向上の成果をあげている。医療面でも、往診を受けられる診療科目が多く、また通院支援も行い、利用者や家族の安心に繋がっている。職員のチームワークがよく、利用者が自分のペースで生活を楽しみ明るい表情が見受けられる。また、利用者の身体能力の低下に合わせて庭の畑を芝生に変更し、憩いのスペースとするなど、利用者本位を追求した姿勢が感じられる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」は、「職員を育てる取り組み」「同業者との交流」「日常的な外出支援」などの項目を中心に積極的に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は各職員に評価表を配布し、それぞれが記入したものを基に取りまとめている。内容理解のためガイドブックも活用している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1度、2つの町内会長、地域包括センター職員、利用者、利用者家族などが参加して開催している。状況報告のほか避難訓練、サービス評価、インフルエンザ対策などをテーマに活発に意見交換しており、議事録も整備されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	管理者、ホーム長、計画作成者が親身になって意見を聞く姿勢を示し、意見が言いやすい雰囲気を作っている。玄関横に意見箱を設置しているが全体的に要望は少ないため、家族の来訪時に意見を聞くようにしている。重要事項説明書に外部の苦情受付機関を明示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームとして町内会議、防災訓練、清掃活動、花壇づくり、資源回収、夏祭りなどに参加している。散歩時に近所の方に話しかけ親しくしており、アコーディオン演奏や押し花などを教えてくれるボランティアも受け入れている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム理念に「地域や自然と関わりを持ってあたりまえの生活を自分らしく穏やかに暮らしたい」という文言があり、地域密着型サービスとしての理念を作り上げている。また日常的な視点での介護理念も持っている。		ホーム理念について文言をさらに検討していきたいとの意向であり、よりよい理念を作り上げるよう期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム理念、介護理念がホームの玄関や共用空間に掲示されており、毎朝の申し送り時に職員が唱和して共有している。職員は利用者の一人ひとりの尊厳を尊重して介護にあたっている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームとして町内会議、防災訓練、清掃活動、花壇づくり、資源回収、夏祭りなどに参加している。散歩時に近所の方に話しかけ親しくしており、アコーディオン演奏や押し花などを教えてくれるボランティアも受け入れている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各職員に評価表を配布し、それぞれが記入したものを基に取りまとめている。内容理解のためガイドブックも活用している。前年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」は、「職員を育てる取り組み」「同業者との交流」「日常的な外出支援」などの項目を中心に積極的に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月に1度、2つの町内会長、地域包括センター職員、利用者、利用者家族などが参加して開催している。状況報告のほか避難訓練、サービス評価、インフルエンザ対策などをテーマに活発に意見交換しており、議事録も整備されている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括センター職員が運営推進会議に参加し、管理者は区の管理者会議の役員を務めるなど、区担当者と親密な関係にある。利用者の生活保護受給の関係でも保護課とも連絡を取り合っている。代表者も区の民生委員会長を務め、企業としても市と連携している。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪が頻繁にあり、その都度利用者の状況を報告している。ユニットごとにホーム便りを毎月作成し、「一筆レター」や金銭出納報告と共に家族に送付している。普段から利用者の写真をたくさん撮り、家族に提供している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者、ホーム長、計画作成者が親身になって意見を聞く姿勢を示し、意見が言いやすい雰囲気を作っている。玄関横に意見箱を設置しているが全体的に要望は少ないため、家族の来訪時に意見を聞くようにしている。重要事項説明書に外部の苦情受付機関を明示している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>最近1年間は職員の離職が減り、ユニット間の異動もしていない。職員が退職する場合は、利用者にダメージを与えないように退職ではなく異動と説明するなど工夫している。担当が交代する場合は、1ヶ月程度の引き継ぎ期間を設けている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の研修参加について重点的に取り組む方針とし、年間スケジュールを立て、同業者グループホームの見学、外部研修・講習会への参加、実践者研修への参加など、それぞれにできるだけ多くの職員を参加させている。その費用も特に高額なもの以外は会社で負担している。また、研修報告も実施している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は区のグループホーム管理者会議の役員をしたこともあり、同業者と交流する機会がある。区のグループホーム職員研修会に職員が参加し、他のホーム職員とグループ討論の機会を持っている。今年度は2回、職員6名程が他のグループホームを見学訪問した。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者は利用開始前にホームを見学を訪れ、場合によっては見学回数を重ね、納得、安心して入居を決めている。利用開始後は慣れるまで、職員がなるべくそばにいてあげるなど安心してもらい、できるだけ早く馴染めるようにしている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>洗濯物の片付けや食器拭きなど職員が作業をしていると利用者ができることを手伝ってくれる。職員は利用者から昔の習慣や戦争時代のこと、今の幸せなどを教えてもらうこともある。また、利用者が職員の健康に気遣ってくれる場面もある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	職員は利用者の思いや希望をしぐさや表情などから概ね把握することができる。利用開始時にセンター方式によるアセスメントシートを作成し、利用者本人の健康状況や生活歴などの情報を充実し共有化している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	利用開始時にセンター方式によるアセスメントに基づく介護計画を作成している。介護計画と共に「生活援助プラン表」を作成し、食事や排泄、入浴、移動、医療など、それぞれにどのようなサービスを提供するかについて細かな計画を立てている。介護計画は家族に説明され確認の印を得ている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	見直し期間を3ヶ月に設定し介護計画を作成している。状況変化や入退院時の都度の見直しも行われている。計画の見直しの際は、各職員がそれぞれ評価を行い、ほぼ全員が参加するユニット会議を開催し、意見を持ち寄り、継続や中止などの判断を行って計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	病院や美容院、買い物などの送迎を行っており、訪問の理美容も利用している。家族がホームに泊まる際は寝具や食事を用意している。グループ内の他のグループホームと車椅子用の車両を共有し、外出に活用している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関による月2回の往診(内科・精神科)を受けており、訪問看護も毎週受けている。その他に泌尿器科、皮膚科、歯科などの往診も利用できる。通院についてもホームで対応することが多い。受診結果は適切に家族に報告している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>実際には看取りに近いところまでホームで介護を行う場合があるが、利用者や家族と「重度化した場合の対応に係る指針」や「看取りに関する指針」などの書類までは取り交わしておらず、状況に応じて家族と相談することとしている。</p>		<p>利用開始時に終末期や看取りに関するホームの方針を家族に説明し、「指針」などの書類を取り交わすなどして方針が共有されることを期待したい。</p>
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>稀にはあるが、職員の言葉かけや対応に気になる点が見られる。一方、個人の記録は事務所に安全に保管・管理されている。来訪者の受付簿については利用者ごとの一覧形式となっている。</p>		<p>言葉かけや対応については管理者の指導だけでなく、職員同士で勉強会を開催したり禁句集を作成するなど自発的な気付きによる改善を期待したい。また、受付簿は一覧形式から訪問者ごとのシート形式にすることを期待したい。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかな1日の流れはあるが利用者は自由に過ごすことができ、レクリエーションや体操の参加も無理強いしていない。希望に応じて買い物や散歩の支援を行っている。入浴の時間や長さも希望に沿っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力を活用しながら食事の準備や後片付けを行っている。食材は指定業者により供給され、季節の食材を取り入れてもらっている。またその季節の食材を利用者と話し合いながらメニューに取り入れ、献立を変更するなど食事を楽しんでいる。利用者は職員と一緒に、笑顔で、必要に応じて介助を受けながら食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴することができ、各利用者は週2回以上の入浴を行っている。時間帯は午後が中心であるが、希望があれば午前中の中の入浴も可能である。入浴の長さも利用者の希望に合わせている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事のセッティング、食器拭き、洗濯物たたみなど利用者は個々の役割を持っている。絵や囲碁、大正琴、ハーモニカなどの趣味を継続している利用者もいる。アコーディオン演奏、押し花、手芸などのボランティアを受け入れ、利用者にも楽しんでもらっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調に配慮し、散歩や買い物を支援している。以前はホームの庭が菜園だったが、介護度が進み収穫作業が難しくなったため畑を芝生にし、利用者がくつろげるようにした。その他、花見や紅葉狩りに行ったり、回転寿司やラーメンを食べに行くこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を理解し、玄関は日中鍵をかけていない。外出傾向がある利用者のため3階はユニットからエレベーターへの扉に鍵をかけているが、内側から簡単に開けることができる。利用者の出入りがある場合はセンサーが鳴り、外出がわかるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の協力を得て年1回、日中を想定した避難訓練を実施している。訓練には町内会の方の参加も得ており、同時に職員の救急救命訓練も実施している。</p>		<p>2回に1回程度、夜間も想定した避難訓練の実施を期待する。また、緊急時の連絡網に町内の協力者の連絡先も載せてもらえるように運営推進会議などでの働きかけを期待したい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は委託業者の管理栄養士が作成しており、業者より食材を取り寄せている。献立表に食事ごとのカロリーや栄養バランスが表示され、活用している。日々の記録に食事や水分の摂取量を記録しており、個々の健康状態や体重変化に応じて量を調整している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には利用者の写真や季節の装飾が施され、家庭的な調度品も置かれている。明るさや温度、音なども調整され居心地よく過ごせるようになっている。段差がある場所のスロープや必要な手すりも適切に設置されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者により持ち込む家具や調度品の量に違いがあるが、居室には利用者が自由に馴染みの品物を持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。壁にも利用者が自由に飾り付けをすることができる。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。